

つがるの昔っこ (昔話) 18

# 餅争い (標準語Ver.)

猿と蟹は友達のもりで山へ行って、  
餅つきをしていました。

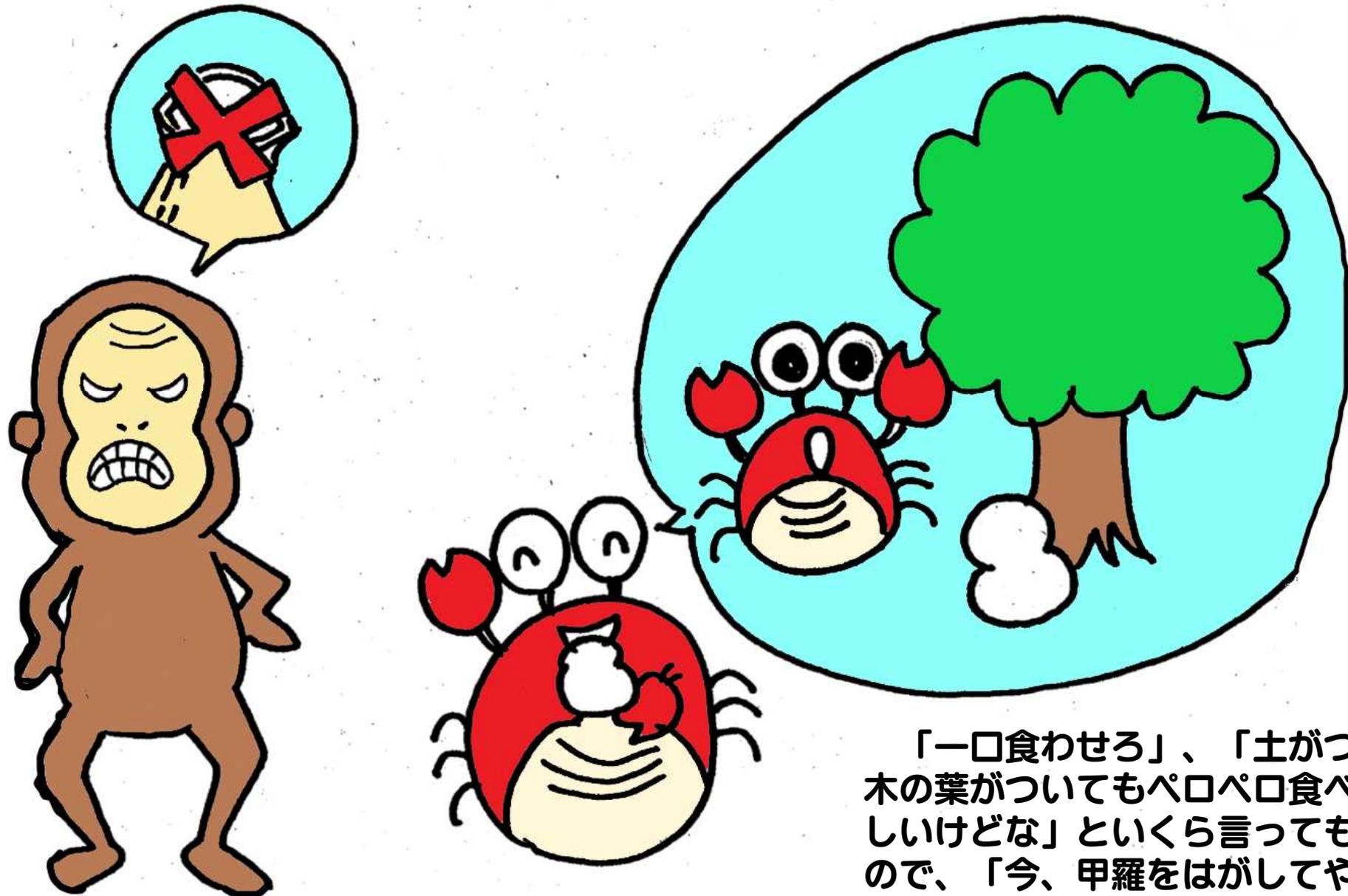
国土交通省 東北地方整備局  
岩木川ダム統合管理事務所  
イラスト：やざわ ゆな  
カラーリング：つしま けいこ



猿は、餅ができたところで臼を転がして、「誰でも見つけた人のものだ」と言いました。猿は足が速いので、転がる臼と一緒に走っていきました。

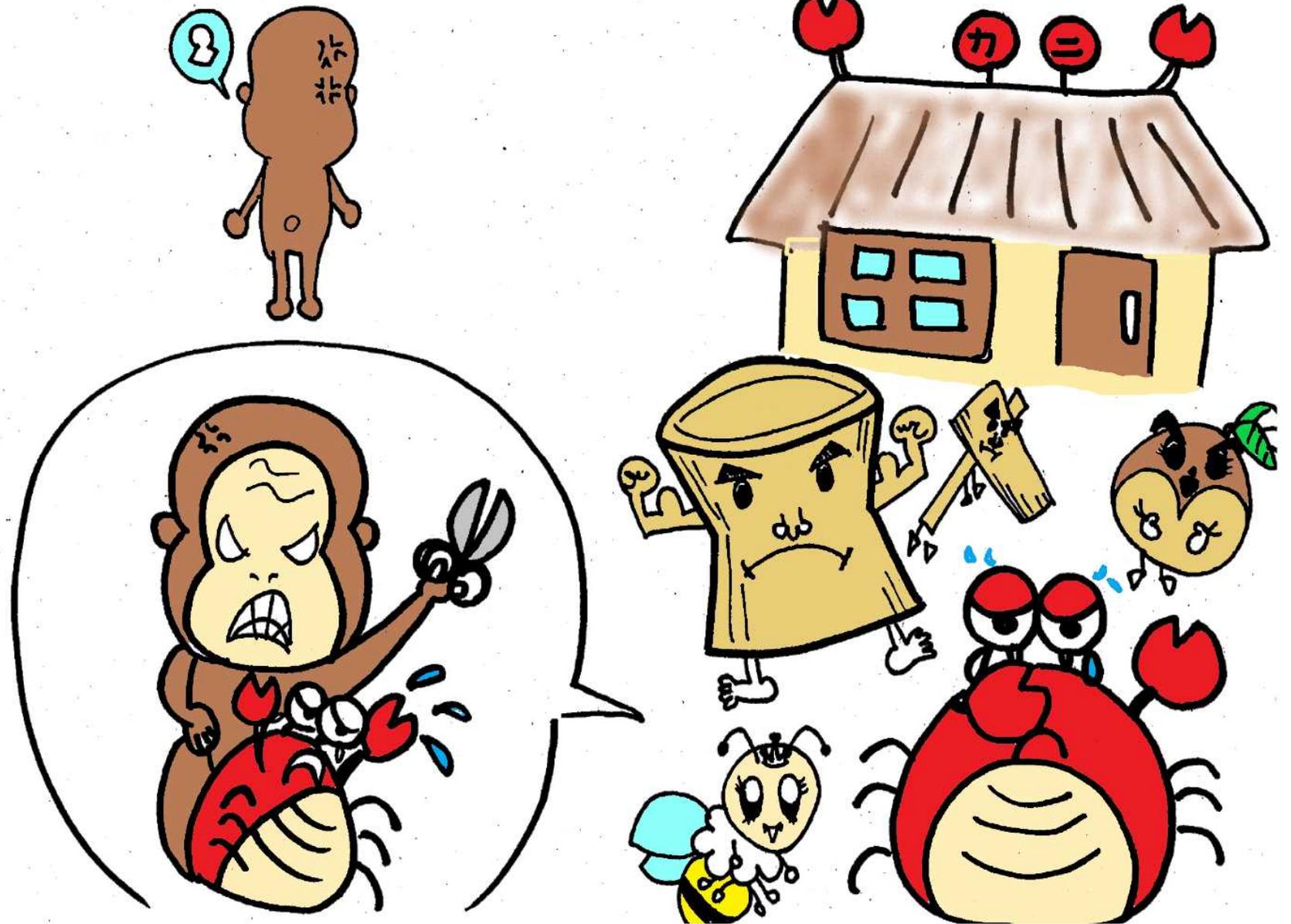


臼が止まった所まで来ると、臼に餅は何もはいていませんでした。蟹は走れないので、ムッスラムッスラ歩いてくると、木の根っこに餅がたっぷり落ちていたそうです。蟹がそれを食べていると、餅が何も無かった猿は戻ってきて蟹を怒りました。



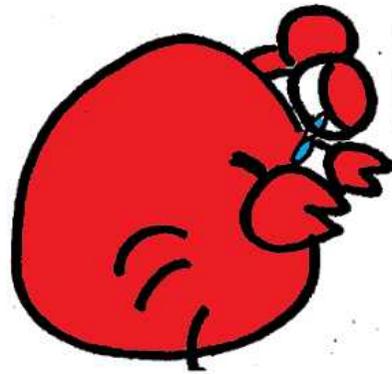
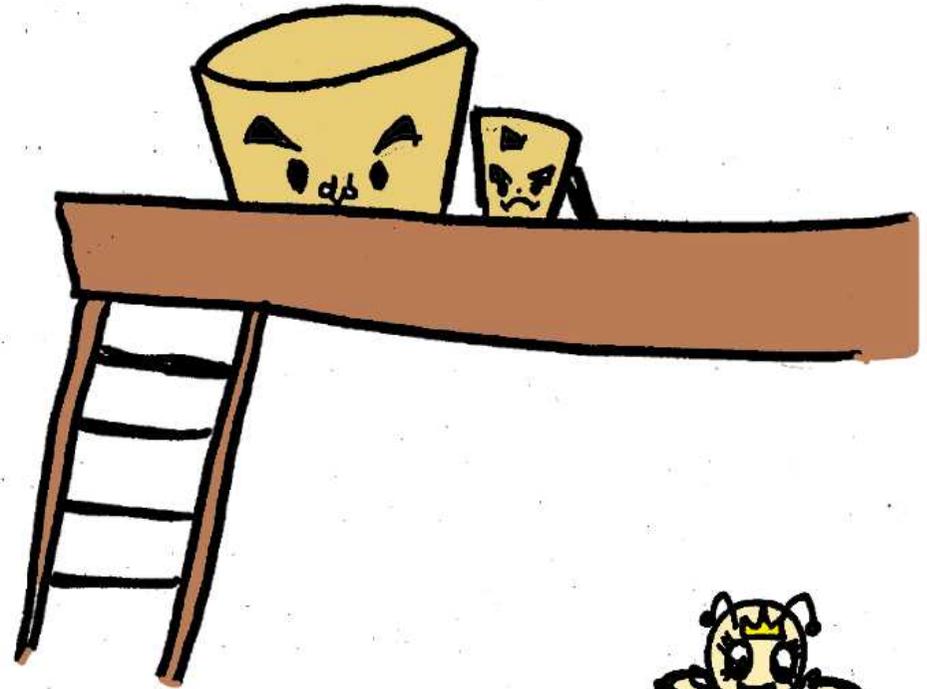
「一口食わせろ」、「土がついても、木の葉がついてもペロペロ食べれば美味しいけどな」といくら言ってもくれないので、「今、甲羅をはがしてやる。覚えてろよ」と言いました。

猿が帰って、蟹は怖くて泣いていました。



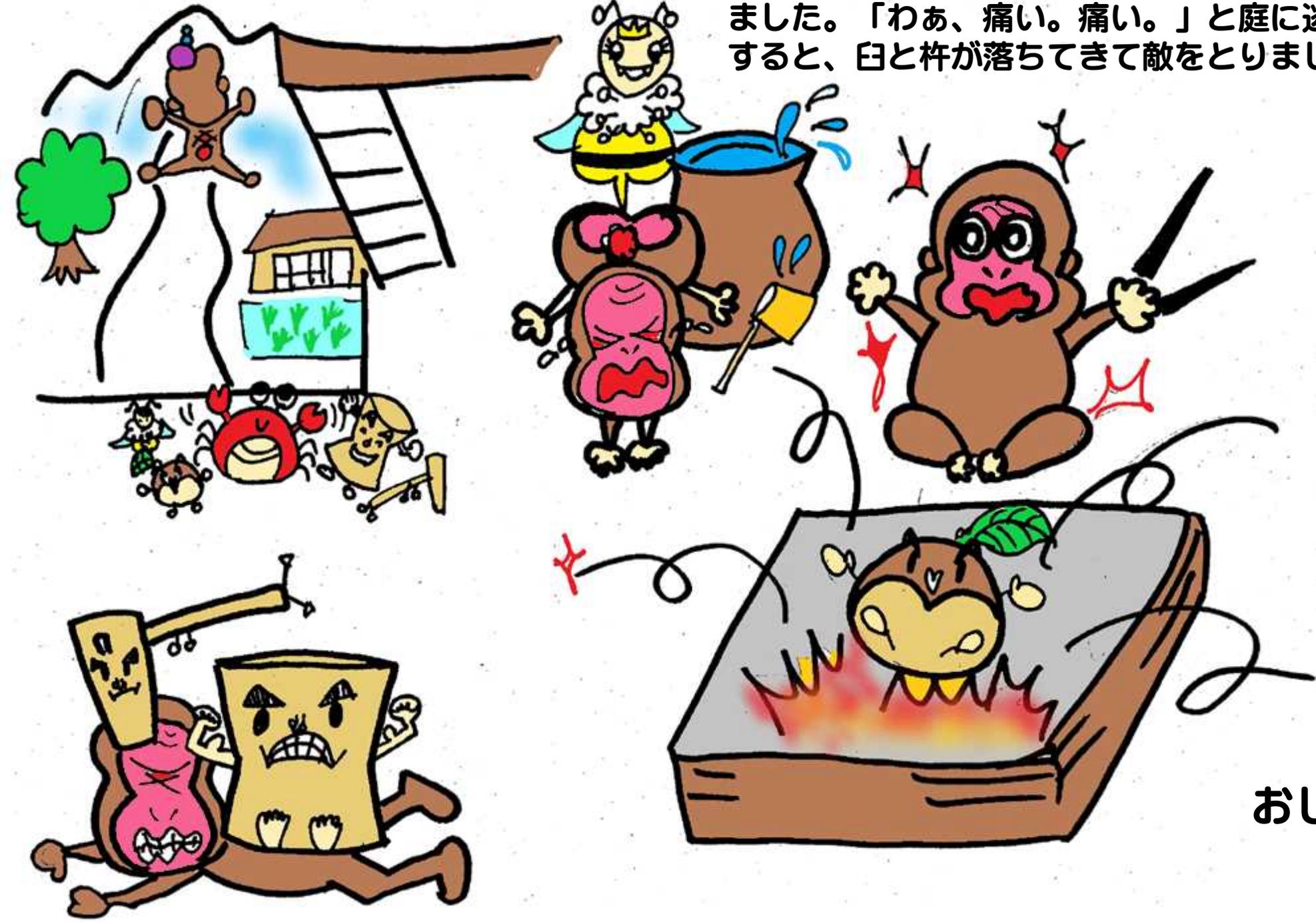
すると椽（とち）が「どうして泣いているの」と聞いたので事情を話すと、「私が手伝いをするから泣かないで、泣かないで」と言いました。今度は蜂が飛んできて聞きました。また事情を話すと「おれが手伝うから泣くな」と言いました。そしたら臼と杵もやってきました。また事情を聞いたので、「私も手伝いをするから泣かないで」と言いました。

猿は家に居なかったので、椽は「おれは囲炉裏に入る」、蜂は「私は水瓶に居よう」、臼と杵は「おれは屋根裏にいるから」と言いました。



そして今度は猿が、「蟹、元気か」とやってきたので、蟹は怖くて泣いてしまいました。

猿は「ああ寒い、ああ寒いな」と囲炉裏の前に座って、灰をかき混ぜると椀が跳ねてやけどをさせました。猿が「熱い、熱い」と言って水瓶に行くと、待っていた蜂はお尻を刺しました。「わあ、痛い。痛い。」と庭に逃げようとする、臼と杵が落ちてきて敵をとりました。



おしまい